

## 屋久島生態系モニタリング

### 愛子岳東側斜面の植生調査 平成13年度調査

・標高800m地点  
プロットは、愛子岳登山道に接する地点に設け、北西方向にセンターラインを設定、平均傾斜は32度である。また、地表には礫岩がほとんどなく、適湿な黄色系褐色森林土壌である。

プロット内の階層区分状況は、高木層では、優占種ヒメシヤラ、樹高6~11m、植被率10%、亜高木層では、優占種サクラツツジ、樹高3~6m、植被率5%、低木層では、優占種ハイノキ、樹高1~3m、植被率90%、林床層では、優占種ヤクシマアジサイ、樹高1m未満、植被率95%となっている。

この林分は、ヒメシヤラからサクラアジサイ群集であり、樹高10m以上の高木層はヒメシヤラのみで、高木層には優占種がヤマボウシやハコブシ、ハイノキが非常に多く出現している。高木層・亜高木層の植被率が低く、低木層や林床層（草本層）の植被率が高いのが特徴的である。

## 国有林で森林教室・林業体験を実施

屋久島町内五年生を対象にヤクスギランド内森泉において森林教室、また、研修センターが公募した研修生を対象に保育間伐などの林業体験

十月九日、屋久町教育委員会、ヤクスギランド内の森泉において、屋久町内の小学五年生六十九名を対象に屋久町森林教室を開催しました。これは、生徒達の郷土の自然についての理解を深め、郷土を愛し、その自然を守り育てる態度を育てる事を目的として毎年開催されています。

森林教室では、昔は屋久杉などを伐採する前に御神酒などを奉納し、参拝していたこと

とや実際にスギ・ヒノキ・モミなどの枝を使つての植物の観察の仕方等を説明しました。生徒達は熱心に聞き入り、なかでも、スギの葉をねじると三列になるからスギの漢字は「杉」と書くということに驚いていました。

また、十月十七日には、屋久島環境文化研修センターが全国から募集した六名を対象に、枝打ち・間伐の林業体験を県道白谷線沿いで開催しました。

当日は、白谷雲水峡内を散策した後、屋久島国有林の概要、枝打ち・間伐について説明をし、実際に枝打ち・間伐を体験してもらいました。

全国から集まった研修生は、三十代三名、四十代一名、六十代一名、七十代一名と中高年者でしたが、枝打ちや間伐といった言葉を初めて聞く方もおられ、慣れない作業に悪戦苦闘しながらも貴重な経験ができてよかったですと笑顔が見られました。

### 世界自然遺産登録十周年記念シンポジウム開催

十月二十八、二十九日の両日、屋久島世界自然遺産登録十周年記念シンポジウムが屋

### 第一回屋久島山岳部利用対策協議会

十月七日、屋久島環境文化村センターにおいて、平成十五年度第二回屋久島山岳部利用対策協議会が開催されました。

議題は、GW、夏休み期間中の対策事業の実施結果、平成十六年度事業計画について協議され、特に、荒川登山口等の駐車場問題、GW期間中の交通規制、自動車適正化対策の実施等があげられました。結論まで至らず引き続き

## 屋久島の植物



モミジバキッコウハグマ  
きく科

屋久島の固有品種。  
標高一、〇〇〇m以上の林道脇や木陰に生える多年草。葉は茎の下部で互生し、モミジの葉のように切れ込む。秋頃、葉の中心から長さ一五cmほどの花軸が伸び、白色の管状花をつける。

久島において開催されました。

初日は上屋久町離島総合センターにおいて、鹿児島県知事の主催者挨拶に始まり、やぐしまエコ・キッズ（小・中学生）、屋久島高校普通科環境コースの生徒、両町の青年団より基調報告がなされ、続いて、作家立松和平氏による「人々の暮らしと世界自然遺産の島」と題した講演がありました。

検討することで確認されました。

また、登山者は夏休み期間を過ぎると減少していましたが、今年九月に入ってもあまり減少せず、例年とは違う現象となったなどの意見も出されました。

最後に、山岳のトイレ問題を解消するための協力金制度の導入、登山道のゲート及びエコツアーリズムの中で検討されている自然環境の保護、保全のための利用者における費用負担のあり方等について各団体より検討課題として提案されました。

翌日は、研修エコツアーとして、世界自然遺産と人々の暮らし、エコツアー体験と環境キップ、ごみ・トイレと離島の環境対策の三コースに別れてそれぞれ見学や意見交換が行なわれました。また、屋久杉自然館館長の日下田氏をコーディネーターに、パネリスト六名による「自然遺産活用モデルを考える「エコツアーリズムと環境キップ制度」」と題したパネルディスカッションが行われ、世界自然遺産登録以来登山客の急増に伴うゴミ処理やトイレ処理の問題、屋久島エコツアーリズムのあり方、環境キップ制度や入山協力金制度の導入についての活発な意見交換が行われました。

最後に鹿児島県、上屋久・屋久両町などの「屋久島の将来像を描き、世界自然遺産としての方向を提案します」と題した総括セッションがなされ、シンポジウムを終了しました。



# 屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査等の入林状

(平成15年4月1日から平成15年10月31日受付分)

## 1. 動物関係

入林代表者氏名	入林目的	入林箇所	所属	備考
相場 慎一郎	シカが植生に与える影響	3. 8	鹿児島大学 理学部	
揚妻 直樹	ヤクシカが森林植生に与える影響を明らかにする	1-4. 9-15. 49-58. 74. 75	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 苫小牧研究林	
清野未恵子	ヤクシマザルの調査	1~4	京都大学理学部 人類進化論研究室	
早川 祥子	野生ニホンザルの遺伝、生態学的研究	1~4	京都大学 霊長類研究所	
香田 啓貴	野生ニホンザルの行動調査	1~4	京都大学 霊長類研究所	
半谷 吾郎	ニホンザルの行動的体温調節についての調査	2-3. 8-9	京都大学 霊長類研究所	
半谷 吾郎	ニホンザルの分布調査	6-12	京都大学 霊長類研究所	
河内 俊英	屋久島ザルの調査	1~4	久留米大学医学部生物学教室	
布施 健吾	屋久島ザルの調査	1~4	久留米大学医学部生物学教室	
杉浦 秀樹	西部林道周辺のヤクシマザルおよびヤクシカの頭数調査	1~4	京都大学 霊長類研究所	
永井 真紀子	ニホンジカのエサ資源量の測定	永田岳~宮之浦岳・西部林道・大川林道	横浜国立大学環境情報学府 環境生命地球環境生態学研究室	
半谷 吾郎	ニホンザルの行動的体温調節の研究	8, 9, 12	京都大学 霊長類研究所	
千葉 かおり	ヤクシカによる植物の食害状況調査及び種の判別調査	1~35 外	(財) 自然環境研究センター	
相場 慎一郎	シカが植生に与える影響調査	8	鹿児島大学 理学部	

## 2. 植物関係

入林代表者氏名	入林目的	入林箇所	所属	備考
相場 慎一郎	屋久島の天然林の純一次生産速度推定	2. 4. 14. 76. 81. 204	鹿児島大学 理学部	
東樹 宏和	ヤブツバキとツバキシギゾウムシの共進化に関する研究	49. 53-54. 62-63. 74-76. 78-81	京都大学大学院 理学研究科	
吉丸 博志	屋久島森林生態系における固有樹種と遺伝子多様性の保全に関する調査	3-6. 47-48. 50-51. 56-57. 66. 80-81. 84-86. 212-215. 229-230	(独) 森林総合研究所	
馬田 英隆	屋久島バイオマス資源の増殖技術開発のためのヤクスギ・ヒノキの採種	95-86. 228	鹿児島大学 農学部 附属演習林	
辻野 亮	植物の更新過程の解明のための調査	1~4	京都大学 生態学研究センター	
松井 淳	ヤマモモ個体群の遺伝構造におよぼすヤクシマザルの影響について	1~4	奈良教育大学	
吉丸 博志	ヤクタネゴヨウの天然更新を阻害する要因の解明及び保全技術の開発	1105-1110, 1114-1117, 1128, 1137	(独) 森林総合研究所	
松岡 法明	植生遷移の研究のため	2. 11. 257. 224. 225	鹿児島大学大学院 理工学研究科	
高田 壯則	西部林道タワー付近の樹木の生長パターンの調査	2い	北海道東海大学 国際文化学部	
武生 雅明	スギ林の動態の研究のため	13, 17	東京農業大学地域環境学部森林総合科学科	
館野 正樹	東京大学理学部の生態学実習で照葉樹林の毎木調査を行う	3, 4	東京大学大学院理学系研究科附属植物園日光分園	
岡田 博	植物採集	18-19, 22, 82, 97-98	大阪市立大学理学部附属植物園	
吉田 茂二郎	ヤクスギ固定試験地林分調査・試験地保守	17い	九州大学	
半谷 吾郎	森林の果実量の調査	8~12	京都大学 霊長類研究所	
手塚 賢至	ヤクタネゴヨウ自生地調査	1104-1107	ヤクタネゴヨウ隊	
相場 慎一郎	植生調査	9. 16. 21. 24	鹿児島大学 理学部	
吉丸 博志	屋久島森林生態系における固有樹種と遺伝子多様性の保全に関する調査	18, 19, 22, 82, 83, 89, 93, 94, 97	(独) 森林総合研究所	
新山 馨	ヤクスギおよび照葉樹林の毎木調査	2い、86	(独) 森林総合研究所	
木村 勝彦	原生自然環境保全地域での毎木調査	17	福島大学 教育学部	
大谷 達也	アコウの分布状況を確認し生枝を採集する	2, 3, 4	(独) 森林総合研究所 九州支所	
高宮 正之	シダ植物の調査と採集	90, 101, 102, 206 外	熊本大学大学院 自然科学研究科	
相場 慎一郎	植生調査	4. 10. 21	鹿児島大学 理学部	

## 3. その他

入林代表者氏名	入林目的	入林箇所	所属	備考
久米 篤	大気及び酸性雨調査	3~4	九州大学大学院 農学研究院	
David Hill	コウモリの調査	1~4, 250, 251, 80, 86	サセックス大学	
上村 幸廣	酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査	3. 9	鹿児島県農業試験場	
佐藤 輝	シロアリに共生する微生物を取得するために数種類のシロアリを採取	島内一円	製品評価技術基盤機構 伊テクロジー本部	